

コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	株式会社細尾 代表取締役社長 細尾真生
補助事業テーマ	ステンレス西陣織の試作開発による事業拡大の可能性調査
事業実施期間	令和2年10月12日 ～ 令和3年2月28日
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 意匠性の高いステンレス織物を開発すること</li> <li>② With コロナ社会の新しい価値観を持つ市場に向け訴求力のある素材を開発すること</li> <li>③ 既存・新規の両クライアントに訴求できる素材を開発すること</li> </ul>
事業の実績(成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 協力工房と共に複数回の試作を行ってまいりました。結果として、複数柄の開発を進めることができたことに加え、ステンレス素材と弊社独自の織技術、それぞれの特徴に対する理解を深めることが出来ました。これまでに得た知見を活かし開発を続ける事で独自性ある素材を作り上げることが出来ると考えております。新しい素材と技術の組み合わせですので、良いバランスを探りながら魅力的なデザインを作り出すことが引き続きの課題になると感じています。</li> <li>② ターゲットとする市場のお客様とコミュニケーションをとりフィードバックを分析しつつ、既存の類似商品のベンチマークと分析を行いました。お客様の価値観の変化として、衛生面での機能に加え長く使い続ける事ができる美しいもの、というサステナビリティ観点での機能性を踏まえたものが求められる事が増えていると感じています。ステンレス織物であればこのニーズの変化に応えられると考えています。</li> <li>③ 試作を繰り返す中で、素材の特徴を捉えた画像や動画を基に既存クライアントや今までになかなかご縁がなかった業種のお客様に対し、その素材にたいする印象やフィードバックをいただく事ができました。結果として、開発途中の素材に対する印象、実際に採用していただいた際に発生しうるトラブルや困りごとなどについて伺うことができ、デザイン開発に反映することができています。</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、協力工房と開発を続ける予定です。これまでの試作を踏まえ、デザインをブラッシュアップしつつコレクションとしてのバランスを検討し、ある程度の幅の用途やデザインテイストに対応できるラインナップを揃える予定です。</li> <li>・ヒアリングの結果、既存・新規の両顧客にもこのような素材への関心やニーズがあるという事が分かりましたので、商品が完成次第、提案を行い営業活動に繋げる方向で計画を立てています。</li> </ul>